

第 2 分科会

社会福祉事業の現場から「公的責任」を問う —地域/住民のニーズを出発点として—

【ねらい】

社会福祉改革が進むなか、社会福祉事業のあり方が問われ続けています。営利・非営利を含むさまざまな事業主体が、政府に管理された枠組みの中で「競争」し、そこから生まれた「利益」の範囲内で独自の事業を展開していくことが求められています。しかし同時に「効率化・適正化」の名の下に財政削減が進められ、公的責任で対処されるべき部分を社会福祉事業の対象者や現場の経営者・労働者へ押し付けようとする状況もみられます。

さらに近年、社会福祉法人に対して「国家や地域への貢献」が指示されるようにもなりました。しかし注意しなければならないのは、こうした理念が政府によって「活用」されることで、現在の政策・制度や方向性が正当であるかのように見せかけ、上記のような問題点を覆い隠す役割を果たすということです。

このような状況をふまえたとき、私たちが確認していくべき点として①地域/住民の必要性(ニーズ)にこたえていく社会福祉事業とはどのようなものか、②そうした現場実践から公的責任を問う筋道・方法とはどのようなものか、が挙げられるのではないのでしょうか。

本分科会は、上記 2 点について各地の現場実践と社会福祉事業をめぐる動向とを共有しあい、結びつけながら、今後の方向性を考えていく機会にしたいと考えています。

【報告者】

地元との協力関係から生まれた中山間地デイサービスセンター北山杉いこいの家の運営について

児島一晃さん（社会福祉法人七野法人常務）

石田紘之さん（デイサービスセンター北山杉いこいの家管理者）

社会福祉法人与行政、多様な事業主体との連携のあり方

～高齢化・過疎化のまちを、福祉と行政・地域との連携が切り拓く

青木一博さん（社会福祉法人よさのうみ福祉会 理事長）

社会福祉法人改革の背景・動向と、社会福祉事業のあり方について

—今後の社会福祉(法人)事業経営のあり方と公的責任を問う視点・方法—

石倉康次さん(立命館大学教授、総合社会福祉研究所理事長)

【コーディネーター】 田尾直樹さん（立命館大学教授）

【司会・進行】 橋本信夫さん(社会福祉法人七野会副理事長)